

2004年5月12日

国内初の公募型産学共同研究制度の実施について ～旭硝子リサーチコラボレーション制度～

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、企業としては初めて、自社のニーズ・シーズに基づいた公募方式により、大学あるいは公的研究機関等と共同研究を行う制度（旭硝子リサーチコラボレーション制度）を実施することとしました。今回公募する研究課題は、「ガラスなどの無機透明材料」及び「フッ素化学」の2分野です。応募された研究計画を当社が審査し、最終的に選定された研究課題に対し、年間2,000万円程度の研究費用を支払います。また、今回選定されなかった応募者の中から、優れた研究計画を提出した応募者に対して奨学寄附金を交付します。ここ数年、様々な方式により産学の技術移転や連携研究が進められていますが、当社は、公募方式による共同研究を採用します。

当社は、技術本部中央研究所と各カンパニー・事業本部に属する研究部門の二元的体制で研究開発を行っています。中でも中央研究所は、新規事業創出及びコア事業を支える基盤技術強化を重点課題として取り組んでおり、これまでも当社が保有していない技術を中心に、一部の社外研究機関との連携を図ってきました。

一方、大学や公的研究機関においても、知の成果をどのように社会に還元するかが問われる時代になりました。各機関には技術移転や知的財産権を専門に扱う部署が設立され、制度改革も進み、研究者が積極的に企業と共同研究を行う環境が整ってきました。

このような背景の中で、当社は、グループビジョン“*Look Beyond*”の中でコア技術として位置づけているガラス及びフッ素化学の分野において、社外ならではの新しい発想や知恵、アイデアを求めて、大学・公的研究機関との連携をこれまで以上に強化することとしました。特に、フッ素化学の分野では、一般には入手が困難な研究材料を当社から提供する、というスキームを導入しました。今回の公募内容は次の通りです。

1．公募対象者

国内の国公立大学、公的研究機関等に所属する概ね50歳以下の研究者

2．研究課題

ガラスなどの無機透明材料とレーザーに関する研究

当社が提供するフッ素系化合物やフッ素系材料を用いた研究

3．研究期間

原則2004年以内に研究を開始し、2年間あるいは3年間

4．研究費

1 課題あたりの研究費は、年間 2,000 万円程度（研究専従者としてのポストドク雇用を含める）

5．審査方法

研究計画の書類審査及びヒヤリング（面接）審査

6．応募方法

当社ホームページに掲載。（応募書類に必要事項を記入の上、指定の電子メールアドレス宛に送付）

* 当社ホームページアドレス <http://www.agc.co.jp/>

7．応募スケジュール

応募書類提出期間	6月1日から8月10日まで
書類審査結果の通知	8月末（予定）
ヒヤリング審査結果の通知	9月末（予定）
共同研究契約の締結	11月末（予定）

当社は、共同研究により得られた成果を社内で積極的に活用し、継続的に新事業・新商品を創出することにより、高収益・高成長のグローバル優良企業を目指します。

以 上

メディア関連のお問い合わせ先：旭硝子株広報室長 川上 真一

（担当：斎藤 TEL:03-3218-5509、Email:info-pr@agc.co.jp）

研究機関からのお問い合わせ先：旭硝子株新事業・技術企画室 増井 暁夫

（TEL:03-3218-5816、Email:asahi-collaboration@agc.co.jp）